

きゅうしみずけしょうへきが  
旧清水家障壁画

種 別 絵画

指定年月日 令和6年8月9日

所 在 地 串茶屋民俗資料館（小松市串茶屋町）

串茶屋民俗資料館の建物は、かつては造り酒屋「能登屋」の客殿で、文政12年（1829）に建造されたとされている。明治11年（1878）、明治天皇の北陸御巡幸に際し、10月6日に御小休された際には清水家宅となっていた。この建物はその後寺井へ移築されたが、後に現在地に戻され、平成7年（1995）からは串茶屋民俗資料館となった。

①雲龍図天井画：折上げ天井に、円窓に龍が墨で描かれる。龍神は水を司り火災から建物を守るとされ、禅宗寺院などでは、法堂の天井に描かれることが多い。

②山水図襖：画面一杯に大河が描かれる。左方に崖の斜面が描かれ、山々が連なる。

③剡溪訪戴図襖<sup>えんけいほうたいず</sup>：2面に舟人物図、続く右縁側の2面に、雪の積もった藁屋の軒先で箏に寄りかかり、佇む高士を描く。

④山水図天袋：金地水墨画である。4面の横長の画面を生かし山水家屋、橋人物図が繰り広げられている。狩野派の確かな筆致をみることができる。

⑤鳩図天袋：2面の金地着色画である。梅の折れ枝に左向きの鳩が一羽止まる。

佐々木泉景の絵として天井画はほとんどなく、しかも一般の在家に伝来したことは珍しい。また同時に襖絵や天袋にも泉景の筆を見ることができ、一か所でまとまった数の泉景の絵があること自体貴重である。加賀藩お抱え絵師である泉景は、石川県における近世絵画を代表的する絵師であり、その意味でもこの天井画や襖絵・天袋などは文化財としての価値は高い。



①雲龍図天井画



③剡溪訪戴図襖



②山水図襖



④山水図天袋



⑤鳩図天袋